

2017年度 協豊会関東地区活動

## 「パラスポ」講演会を開催しました



協豊会関東地区は10月23日(月)にトヨタ自動車東京本社において、今年度第3回目のグループ活動としてパラスポーツ選手による講演会を開催しました。

この講演会は今年度のグループ活動で掲げているテーマ、「2020年東京オリンピック・パラリンピックへの盛上げに向けた障がい者やパラスポーツへの理解促進」の取組みの一環として開催したもので、講師にはトヨタ自動車 総務・人事本部様のご厚意により、同社のオリンピック・パラリンピック部に所属し、パラ陸上選手として活躍をされている、「リオ・パラリンピック」と「2017パラ世界陸上」のメダリスト、芦田 創(はじめ)様をお迎えしてお話をいただきました。

当日は台風一過の強風が吹き荒れる一日でしたが、出席した関東地区会員会社からの42社、48名の方々にとって、芦田選手のひたむきかつ熱意溢れるお話に深い感銘と共感を覚える素晴らしい講演会となりました。



芦田 創 選手

芦田選手の講演テーマは『より遠くへ』。今まで歩んできた人生とアスリートとして学んできたこと、そして夢への挑戦についてお話をされました。

『5歳の時に右肘に腫瘍が発症し、大好きだったスポーツを我慢して病気の進行と戦いながら苦しい治療を続けた幼少から中学生時代。そして、15歳の時に医師から右腕の切断を勧められ、どうせ切るなら腕が有るうちに好きなことを思い切りやろうと始めたのが陸上競技。でも、不思議なことに、陸上を始めたら病気の進行が奇跡的に止まった。

「好きなことに全力で打ち込み、心が明るくなり、病気と闘う力が上がった」と感じ、高校ではますます陸上に打ち込むが、怪我や故障の連続で思うような成績は出せず。

やる気をなくしていたところで、義足のレジェンド・山本篤氏からパラ陸上への誘いを受ける。そして高校3年でいきなりパラの日本新記録を出す、そのことがパラスポの世界を甘く見ることになり、大学に進んだところで大スランプに陥ってしまう。

大学4年の就職活動の中で「障がいを持っていることこそが自分の個性なのだ」ということに思いが至る。更には、体育会競走部の磯コーチとの出会いにより、本当の一流アスリートになって金メダルを取りたいという夢を持つことになり、夢と個性がマッチしたことで“やる気スイッチ”が再び入る。

改めてパラ陸上に取組むにあたり、もともと走る時の地面を弾く力が強かったことから、それまでの400m走とは決別し、走り幅跳びに専門種目を変更。

リオパラでは100m×4リレーでメダルを獲得するも走り幅跳びは惨敗に。その後、右腕の障害により身体の左右差のバランスが取れていないことが分かり、ピッチやストライドでスムーズな重心移動ができるよう新たなトレーニングを開始。

夢の到達点は「より遠くへ」。東京パラリンピックに向けて、より高いところ、遠いところを目指して日々挑戦を続けている。』



芦田選手(左)を語る総務・人事本部の廣田担当部長様(右)